

## 巻 頭 言



(一財)自治体国際化協会  
理事長 岡本 保

# JET プログラム 30 周年 — 歴史が紡ぐ草の根交流の輪 —

昭和 62 年 (1987 年) に始まった JET プログラムは、今年で 30 年目を迎えることとなりました。

4 か国 848 名で始まった草の根の交流は、2015 年には 43 か国 4,786 名を招致するまでになり、これまでの参加者は 65 か国から 6 万 2,500 名を超えるまでとなりました。JET プログラムは「外国語教育の充実」と「国際交流の推進」という目標を掲げてスタートしましたが、今や、世界最大級の人的交流プログラムへと発展してきました。

JET プログラムが始まった 1987 年は、10 月にブラックマンデーが起こりましたが、日本経済は、GDP 成長率 (暦年) が 4.1 % となるなど、順調な成長を遂げていました。その後、バブル経済が崩壊し、「失われた 20 年」と言われるような経済の低迷状態が続き、2009 年には、中国に GDP で追い越されました。JET 青年たちの採用、就職など、JET プログラムの運営も、このような社会経済状況の変化を反映した 30 年でした。

しかし、このような変化を乗り越えて、JET プログラムが発展を続けることができたのは、地方自治体関係者を始めとする本事業の運営に関わってこられた方々の御努力の賜物です。そして、何よりこのプログラムに参加してくれた青年達が、それぞれの任地で仕事、日常生活、地域活動などを通じて高い評価を得てきたことが、30 年という年月を重ねることができた最大の理由であろうと思います。

彼らは、プログラム卒業後も、母国あるいは日本などにおいて、外交、通商、文化、観光等々、各界の第一線で活躍し、日本とさまざまな形で関わりを持ち続け、日本と海外の相互理解に努めてくれています。彼らは日本の大切な外交的資産とも言えます。

今後、ますますグローバル化が進む中であって、日本には、経済、環境、IT、健康などの分野において、世界的解決に向けた積極的な貢献が求められています。

また、人口減少が進む中、各地域の地方創生に向けて、海外との経済交流、インバウンドを始めとする観光の活性化、多文化共生などの課題も多くあります。

2019 年にはラグビーワールドカップ、翌年には東京オリンピック・パラリンピックも予定されています。多様な文化の違いを尊重し合いながら、話し合い共生の道を探し続けるコミュニケーション能力の充実がますます重要です。また、垣根を取り払うには、直接のコミュニケーション体験が最も効果的です。

JET プログラムには、時代のニーズに応じて、量、質の両面で一層の充実が求められています。

30 年の歴史が紡いできた草の根の交流の輪が、さらに広がり、実り多いものとなるよう努めてまいりたいと思います。